

邂逅

「あなたが待っているものは何ですか。」
静かに月が問うてくる

家並みは龍の鱗

銀色に照りはえて

私たちの

日々の疲れを

藍色の眠りに鎮めてくれる

虫の音が遠くしんしんと

月の輪を震わせて

光の粒子ははらはらと睫毛に降りる

「ああ、この時を待っていたのかも知れない。」

問われる時

私は確かにあなたの前にいる

今、ここに

過去無量劫、無限の宇宙の中

あなたが差し出した手を

私は握りしめる

歓びがひんやりと

静かに頬に触れてくる

私が消えても

私は消えない